

世界遺産「富士山」の価値を考える（第6学年）

奈良市富雄第三小中学校 西口 美佐子

1 ESDを生かした授業づくり

(1) 単元名 「世界遺産『富士山』の価値を考えよう」 小学校第6学年

(2) 単元の概要

本単元は、世界遺産「富士山」の価値を問い直し、児童に多様な価値観があることに気付かせ、さらに、その中で本当に大切なものは何かを考えさせることにより、児童の価値観が持続可能な社会を構築するために高まることをねらいとした。

富士山は、日本が世界遺産条約に批准した1992年から、世界遺産をめざしての活動が行われていた。しかし、2003年の国内選考で自然遺産として世界遺産推薦から落選した。その理由は、1) 既登録地との比較、2) 多様な火山タイプを含んでいない、3) 利用されすぎによる改変、4) ゴミ、し尿処理などの問題であった。これ機に文化遺産での推薦に方向を転換し、2013年世界文化遺産としての登録を果たした。

イコモスが指摘した主な富士山対策

しかし、それと同時に世界文化遺産を審査するICOMOS（国際記念物遺跡会議）から2016年2月までに保全状況報告書の提出求められた。これは、他の世界遺産にはない異例のことである。主な内容は(図1)の通りである。

これに対し、山梨県は平成26年の7月10日から8月31日までのマイカー規制を決定した。これは、観光施設が集中する富士河口湖町、鳴沢町の反対を押し切った決定であった。また、五合目からの入山料として任意で1000円を徴収することも決めた。富士五湖でのモーターボートを抑制するために利用届を毎年提出することに変更した。さらに、建築物に対する改善を図るために、条例を制定したりリフォームの補助金を出したりしようと計画している。

しかし、果たしてICOMOSの指摘通りにすることが富士山の価値を維持、あるいは高めることであろうか。観光業を生業とする地域の人々にとって、観光客の減少は死活問題である。

富士山は今まで、地域と共に存在していたものであり、過去から現在までの地域の人々の協力なしには今の富士山はなかったのである。

- 上方の登山道の受け入れ能力(収容力)を研究し、その成果に基づく来訪者管理戦略を策定する
- 上方の登山道およびそれらに関連する山小屋、トラクター道のための総合的な保存手法を定める
- 噴火または火災の発生時において機能する危機対策計画が緊急に必要
- 構成資産の内部およびその周辺において拡大しつつある構成資産間の関連性を妨げる開発に対する制御

- (1) 富士五湖畔の建築物、動力船、ジェットスキー、不適切な駐車
- (2) 忍野八海の低層建築物
- (3) 白糸ノ滝の完全性を弱める店舗や売店
- (4) 三保松原の海岸防波堤
- (5) 富士宮口5合目施設背面の景観と調和した修景
- (6) 吉田口5合目施設のデザインの改善
- (7) 多種多様な標識や看板
- (8) 電柱
- (9) 7、8月の登山道へ向かう自家用車
- (10) 山麓に沿って厳格な開発制御

(図1)

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK0400F_V00C14A2000000/ より

以上を踏まえて、果たして富士山の価値とは何であるのかを、様々な立場の人々の思いを踏まえて考えさせたいと考える。【多様性】【相互性】【公平性】

さらに、富士山の価値を持続させた社会を構築するために、自分はどう行動するのかを考えさせていきたい。【責任性】

(3) ESDの視点の明確化

【持続可能な社会づくりの構成概念】

構成概念Ⅰ 多様性……世界遺産である「富士山」には、多様な価値が認められること。それは、国やI COMOSが認めたものだけではなく、地域の人々や昔の人が認める価値もあるということ。

構成概念Ⅱ 相互性……世界遺産「富士山」を生かした観光やまちづくりが考えられること。その一方で、世界遺産として制限しなければならない事象もあるということ。

構成概念Ⅳ 公平性……「富士山」に対する日本人の思いは、昔から変わらずに受け継がれてきているということ。

構成概念Ⅵ 責任性……「富士山」の価値を考え、それを持続可能にするために、自分にできることを行動に移そうとすること。

2 ESDの視点を生かした授業の実践

(1) 単元の目標（重視する能力・態度）

《参加》富士山について、意欲的に考えたり調べたりし、自分の意見を進んで述べるができる。【関心・意欲・態度】

《批判》世界遺産「富士山」について、立場によって様々な意見があることを知り、富士山の価値について考えることができる。【思考・判断・表現】

《伝達》富士山について、グループで話し合い、意見をまとめることができる。【技能】

《多面》世界遺産「富士山」の価値と課題について理解することができる。【知識・理解】

(2) 評価規準

《参加》 関心・意欲・態度	《批判》 思考・判断・表現	《伝達》 技能	《多面》 知識・理解
①富士山について意欲的に考えたり調べたりして、自分の意見を述べている。 ②今までの学習を踏まえて、自分たちにできることを考えている。	①様々な立場の意見を踏まえながら、富士山の価値を考えて表現している。 ②富士山に対する思いを昔と今を比較しながら考えている。	①「富士山」について調べたことを付箋を活用しながらまとめ、分かりやすくみんなに伝えている。	①富士山の多様な価値について理解している。 ②富士山の抱える問題について理解している。

(3) 単元の計画 (全4時間)

時	主な学習活動	◇教師の支援	◆主な評価
1	1 「富士山」について知っていることを話し合う。	◇「富士山」と聞いて思い浮かぶことや富士山について知っていることを発言させる。	
	 		
	富士山（世界文化遺産）		
	2 各地に郷土富士がいくつあるかを考える。 ・代表的な郷土富士について知る。 ・奈良にも富士のつく山があることを知る。 ・各地に郷土富士がいくつあるかを予想する。	◇北海道・羊蹄山（蝦夷富士）、鹿児島・開聞岳（薩摩富士）の写真を掲示し、富士山と比較させる。 ◇奈良県・額井岳（大和富士）の写真を掲示し、奈良にも郷土富士があることを知り、全国にはどれだけの郷土富士があるかについての関心を高めさせる。 ◇全国には350以上の郷土富士があることを伝える。	
	3 なぜ、全国に郷土富士がたくさんあるのかを考える。	◇富士山に対する人々の思いを考えさせる。 ◆郷土富士がたくさんある理由について意欲的に考えている。《参加》	
	なぜ、富士山は全国の人々に親しまれてきたのだろう。		
	4 その理由を考えるために、富士山について調べる。（課外）	◇富士山について自分で調べさせる。（インターネット、本、新聞、聞き取り など） ◇調べる時間を取るため、第1時と第2時の間は、少し間をあける。 ◆「富士山」について意欲的に調べている。《参加》	

2	1 富士山について調べてきたことを小グループで交流し、意見をまとめる。 2 まとめた意見を全体で交流し、世界文化遺産として世界に認められた富士山の価値を知る。	◇4人程度のグループを作る。 ◇交流させるときに、調べた内容について簡単に付箋に書き、画用紙に貼らせるようにする。 ◇付箋を利用し、共通するものをまとめたり調べたことを関連付けたりする。 ◇画用紙に短い言葉で分かりやすくまとめさせる。 ◇画用紙を見せながら説明させる。 ◇文化遺産として、浮世絵や海外の絵画への影響があったこと、富士山信仰に関することを押さえておく。 ◆「富士山」について調べたことを、付箋を活用しながらまとめ、分かりやすくみんなに伝えている。 《伝達》
		
御師住宅 旧外川家住宅（世界文化遺産）		富士講の装束
3	1 富士山が世界文化遺産であることについて自分の考えをまとめて、交流する。	◇学習したことを生かして、自分の考えをまとめさせるようにする。 ◆富士山の多様な価値について理解している。《多面》
3	1 富士山に対する ICOMOS（イコモス）からの保全状況報告書提出について知る。	◇前時で ICOMOS（イコモス）の保全状況報告書提出について児童から出なかった場合は、教師が簡単なものを提示する。

		I C O M O S（イコモス）が指摘した主な対策 (1) 富士五湖畔の建築物、動力船、ジェットスキー、不適切な駐車 (2) 忍野八海の低層建築物 (3) 白糸ノ滝の完全性を弱める店舗や売店 (4) 三保の松原の海岸防波堤 (5) 富士宮口5合目施設背面の景観と調和した修景 (6) 吉田口5合目施設のデザインの改善 (7) 多種多様な標識や看板 (8) 電柱 (9) 7, 8月の登山道へ向かう自家用車 (10) 山麓に沿って厳格な開発制御
	2 I C O M O S の勧告に対して 考え、話し合う。 3 実際の富士山を有する自治体 や地域の取組や考えを知る。 4 日本人として富士山の価値を 改めて考え、話し合う。	◇ I C O M O S の勧告に従わなかった世界遺産が登録 を抹消されたことを伝える。 ・ ドレスデン・エルベ溪谷 …新橋を建設のため登録抹消 ◇ 富士山に対する勧告の内容について意味を確認した 後、勧告についてどう考えるか、どうしたらよいかを 話し合わせる。 ◇ 平成26年度、山梨県は7、8月のマイカー規制を決 めたことなどや I C O M O S の勧告に疑問を呈して いる人たちがいることを伝える。 ◆ 富士山の抱える問題について理解している。《多面》 ◇ 様々な立場の考えを踏まえて、富士山の価値は何であ るかを考えさせる。 ◆ 様々な立場の意見を踏まえながら、富士山の価値を考 えて表現している。《批判》
4	1 万葉集に詠まれている「富士 山」を知り、奈良時代の人々の富 士山に対する思いを考える。	◇ 百人一首に選ばれている短歌は、万葉集に載っていた 歌であることを知らせる。
		田児の浦ゆ うち出でてみれば 真白にそ 不尽の高嶺に 雪は降りける (山部赤人)

	◇前述の山部赤人の短歌の前には、長歌があることを知らせる。
	やまべのすくねあかひと ふじのやま 山部宿禰赤人の不尽山を望める歌一首 天地の 分れし時ゆ 神さびて 高く 貴き 駿河なる 布士の高嶺を 天の原 振り放け見れば 渡る日の 影も隠らひ 照る月の 光も見えず 白雲も い行きはばかり 時じくそ 雪は降りける 語り継ぎ 言い継ぎ行かむ 不尽の高嶺は (巻第三、317) 【現代語訳】 天地の初めて分かれた時からずっと、神々しく高く貴い駿河の富士の高嶺を、天遠くふり仰いでみると、空渡る太陽の光も頂に隠れ、照る月の光もさえぎられ、白雲も流れなずんで、いつも雪が降っている。これからも語りつぎ、言いついでいこう、富士の高嶺は。 (出典：中西進著「万葉集 全訳注原文付(一)」講談社文庫
2 自分たちの考えた富士山の価値と比較する。 3 日本人が昔から抱いていた富士山への思いを知り、自分たちにできることを考え、話し合う。 ・富士山についてさらに調べる。 ・富士山のパンフレットを作成する。 ・富士山新聞を作成する。 ・富士山のよさを人に伝える。 など	◇奈良時代の人々が、すでに富士山に対して特別な思いをもっていたことに気付かせる。 ◇日本人の富士山に対する思いは、昔から特別なものであったことに気付かせる。 ◆富士山に対する思いを昔と今を比較しながら考えている。《批判》 ◇今の自分たちにできることを考えさせる。 ◆今までの学習を踏まえて、自分たちにできることを考えている。《参加》